

# やまぶき

第17集

〈学校教育のための博物館活用の手引き〉



川越市立博物館

## あ い さ つ

川越市教育委員会  
教育長 新保 正俊

川越市教育委員会では、平成2年の川越市立博物館開館以来、地域の歴史や文化を生かした「博学連携」を推進して参りました。市内全校を対象とした小学校3年および6年バス利用見学、特色ある町並みや豊富な収蔵品を活用した教員研修など、様々な取り組みを現在も続けております。また、川越市立博物館においても、出前授業や資料貸し出しによる学校の教育活動への支援、市内だけでなく県内外からの3万人を超える校外学習への対応、子どもたちの豊かな心を育てる体験教室などを実施し、より一層学校との連携が深まっております。さらに、埼玉県教育局市町村支援部文化資源課による「平成30・31年度博物館・美術館等を活用した子どもパワーアップ事業」では、モデル地区に選ばれ、現在市内の小中学校とともに県内各校で生かせるような研究実践を進めているところでございます。

さて、「博学連携」の中核組織として活動してきた博物館利用研究委員会では、小・中学校の教員と博物館職員が協働して、学校教育における博物館活用を研究しております。平成29・30年度は、「伝統を受け継ぎ伝えていくための博物館を活用した授業づくり」を主題として、博物館の効果的な活用を研究して参りました。この研究は、多様な教科や様々な学年、校種間など、幅広い連携が可能であることを示すものとなりました。この「やまぶき第17集」には、2年間の実践事例と成果がまとめられております。博物館資料の活用など具体的な連携が記された指導カードが、分かりやすく楽しい授業を実践するための一助となれば幸いです。

結びに、今日までの熱心な研究と本資料の作成に尽力された博物館利用研究委員会の皆様方に、心から感謝の意を表します。

博物館利用研究委員会  
委員長 井口 修一

今回の学習指導要領の改訂では、「主体的・対話的で深い学び」とあるように、教員主導から子ども主体へのより強い意識転換が求められています。そして各教科のリード文には、見方・考え方・教科固有の学習活動、目指すべき子どもの姿、さらにそこからどのような資質・能力が育つのか示されています。つまり資質・能力とは、教え込まれて身に付くというものではなく、一連の問題解決やプロセスの中でそれらが十分活用されることにより、より確かなものになっていくのであると考えられます。

博物館利用研究委員会では、平成29・30年度の2年間にわたり、テーマを「伝統を受け継ぎ伝えていくための博物館を活用した授業づくり」、サブテーマを「新学習指導要領のねらいに迫る博物館の効果的な活用」として、社会科、英語科、家庭科における児童・生徒の「プロセス」を大事にした学習指導に資する教材開発に取り組んで参りました。そのため、各委員が博物館の展示資料や川越市立博物館ホームページにも掲載されている多数の収蔵資料について理解と見聞を深め、教科の専門性を生かしながら活用する道を探ってきました。

この「やまぶき第17集」は、「新学習指導要領のねらいに迫る」博物館資料の活用を焦点とし、それに伴う授業指導や研究成果を収めた「指導カード」を川越市立博物館ホームページに掲載します。

本研究委員会では、今後とも新学習指導要領の主旨を理解し、学校教育に役立つ研究活動を進めて参ります。先生方には、今回の研究成果をぜひ現場で活用していただき、率直なご意見、ご示唆をいただければ幸いです。

終わりに、本研究を進めるにあたってご指導ご助言をいただきました川越市教育委員会の先生方ならびに川越市立博物館の皆様方に厚く御礼を申し上げ、あいさつといたします。

# 博物館利用研究委員会

目的

- 学校の教育課程に位置付けた博物館・文化財の活用の研究と実践
- 地域に根ざした博物館・文化財活用の研究

## 研究開発

各教科・領域の学習に活用できる博物館資料や文化財の研究・授業実践

## 教育普及

博物館活用の手引き  
「やまぶき」の発行  
博物館活用指導者研修会

## 校外学習支援

学習カード・指導カードの作成・配布

## 博物館利用研究委員会

委員長

事務局

副委員長

社会科ブロック

英語科ブロック

家庭科ブロック

平成29・30年度の研究

伝統を受け継ぎ伝えていくための博物館を活用した授業づくり  
—新学習指導要領のねらいに迫る博物館の効果的な活用—

### ■博物館利用研究委員名

武蔵野小学校校長	井口 修一(委員長)	寺尾中学校教頭	斎藤 信行(副委員長)
月越小学校教諭	朝倉 大輔	川越第一中学校教諭	中井 享
川越西小学校教諭	蘆田 伸二	川越西中学校教諭	和泉 尚将
霞ヶ関小学校教諭	石山 沙希	霞ヶ関中学校教諭	松元 一晃
霞ヶ関西小学校教諭	細田 佐和子	霞ヶ関東中学校教諭	尾崎 佳太
高階北小学校教諭	池上 由美	高階西中学校教諭	竹内 彩乃
新宿小学校教諭	田中 萌	大東中学校教諭	門間 愛

(H29年度)

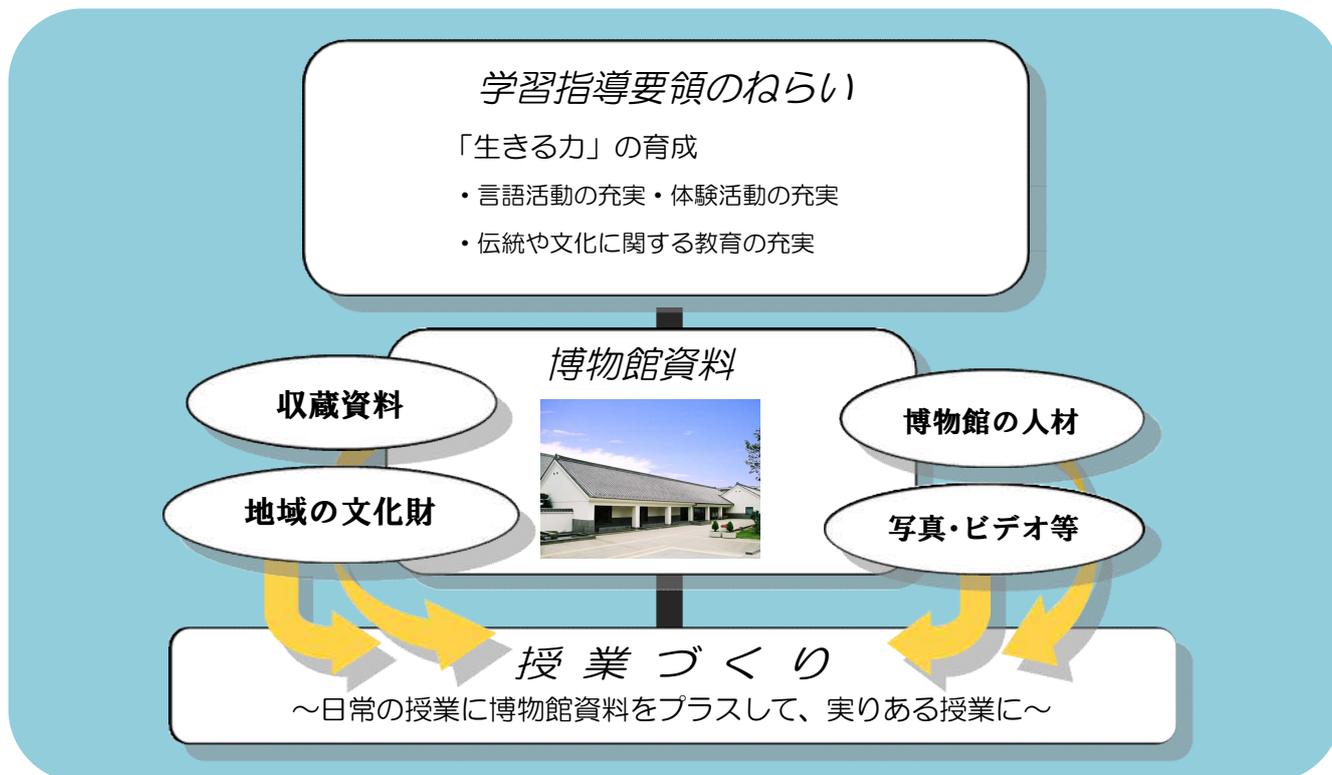
山田中学校教諭	西島 俊介	高階中学校教諭	荒池 真由美
福原小学校教諭	中山 未央	福原中学校教諭	八木 晶子

### ■担当した職員

土井 和貴(指導主事)	伊藤 直仁(指導主事)	寺内 和広(指導主事)
-------------	-------------	-------------

(H29年度)

- 研究主題 -



研究主題 「伝統を受け継ぎ伝えていくための博物館を活用した授業づくり」  
～新学習指導要領のねらいに迫る博物館の効果的な活用～

研究の視点と手だて

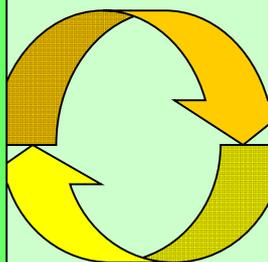
社会科

英語科

家庭科

研究の視点 1

- ◎伝統を受け継ぎ伝えていくための研究
- 博物館職員や収蔵資料等の活用実践
  - 授業に活用する資料の検討・作成
  - 常設展示や川越城址を舞台とした学習の実践



研究の視点 2

- ◎授業実践による考察
- 「指導カード」の検討・作成
  - 訪問授業の実践
  - 授業後の考察

## 小学校第6学年 社会科 指導カード

### 1 単元名「縄文のむらから古墳のくにへ」

### 2 単元計画

歴史博物館にいてみよう	1時間（本時）
三内丸山遺跡と縄文のむら	1時間
板付遺跡と米作り	1時間
縄文と弥生の暮らし	1時間
むらからくにへ	1時間
巨大古墳と豪族	1時間
大和朝廷と国土の統一	1時間

### 3 実際の指導（1/7時間）

#### （1）目標

〈関〉資料をもとに、歴史やそこに生きた人々の生活の様子について興味・関心を高める。

#### （2）本時に活用する資料

教科書ページ	資料名	活用の仕方	ねらい
・ 東京書籍 新しい社会 6 上（P2～3、P8～15）	・ 縄文土器 ・ 弥生土器 ・ 土器破片群	・ 博物館職員から資料について解説を聞く。 ・ 実際に土器に触れ、時代の変化を体感する。	・ 本物を触らせることで、歴史への関心を高める。 ・ 「モノ」から歴史の変遷を捉える。

#### （3）展開

学習活動・学習内容	<input type="checkbox"/> 教師の働きかけ <input type="checkbox"/> 職員の働きかけ <input checked="" type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 資料活用のポイント	資料名	時間
1 本時の学習内容を確認する。	<input type="checkbox"/> 博物館職員を紹介する。 <input type="checkbox"/> 自己紹介		2分
2 教科書の時代年表から時代区分を知る。	<input type="checkbox"/> 時代は連続していること、過去に支えられて現在があることを伝える。	教科書 P2～3	3分
3 縄文～弥生時代の人々の生活を学ぶ。	<input type="checkbox"/> 縄文土器について教科書で調べるさせ、その時々の人々の様子を写真で紹介する  <input type="checkbox"/> 縄文土器・弥生土器について解説を行う。	教科書 P8～15  <div style="font-size: small; padding: 2px;">           ・ 写真パネル            ・ 縄文土器            ・ 弥生土器         </div>	5分



<p>4 土器の破片群からどれが縄文土器か予想する。</p>	<p>◎土器の破片群を手にとらせ、色や紋様など様々なことを手掛かりに分類していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚いようだ</li> <li>・黒っぽい色ようだ</li> <li>・これは縄目があるから縄文土器かな</li> <li>・あれは薄いから弥生土器ではないか</li> </ul> <p>☆様々なことを手がかりとして意欲的に予想を立てることができる。</p> <p style="text-align: center;">関 (発言・ホワイトボード)</p> <p>◎グループごとに議論し、導き出した結論と理由を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土器の破片群</li> <li>・ホワイトボード</li> </ul> 	<p>25分</p>
<p>5 解説を聞く。</p>	<p>□正解の発表【答えはすべて縄文土器】</p> <p>◎解説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時代年表の年代に人々の生活が急に切りかわるわけではない。</li> <li>・人の営みの中で、少しずつ変容していくのが文化である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物投影機</li> <li>・大型テレビ</li> <li>・写真パネル</li> <li>・縄文土器</li> <li>・弥生土器</li> </ul>	<p>7分</p>
<p>6 本時のまとめをノートに書く。発表する。</p>	<p>☆本時を通してわかったこと、疑問に残ったことなどを考えることができる。</p> <p style="text-align: center;">関 (発言・ノート)</p>		<p>3分</p>

#### 4 成果

- 本物に触れることで、歴史の授業開きとして児童の興味・関心が高まった。
- 年表はあくまで時代を表したもので、人の生活や文化は少しずつ積み重ね、変化していくのだということが分かった。

## 小学校第4学年 社会科 指導カード

1 単元名 「先人のはたらき～三富の開たく～」

2 指導計画（22時間扱い）

- (1) 三富地区の様子や先人たちの生活の様子について関心を高める。・・・・・・・・・・ 1時間（本時）
- (2) 三富の位置や土地利用の様子を昔と比較し、先人の開拓についての関心を高め、  
学習問題を設定する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
- (3) 新しい村づくりが、どのように行われていったのかを調べる。・・・・・・・・・・ 4時間
- (4) 水を手に入れる努力や工夫について調べる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間
- (5) 開拓をしていた頃の人々の暮らしについて調べる。・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間
- (6) 三富について課題を設定して調べる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間
- (7) 調べたことをまとめて発表する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間
- (8) 先人から学んだことをまとめる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

3 実際の指導（1/22時間）

(1) 目標

<関>資料をもとに、三富地区の様子や先人たちの生活の様子について興味・関心を高める

(2) 本時に活用する資料

教科書ページ	資料名(図録ページ)等	活用の仕方	ねらい
かわごえ (P56～57)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鍬 (くわ)</li> <li>・ 唐鍬 (とうぐわ)</li> <li>・ 籠 (かご)</li> <li>・ もっこ</li> <li>・ 写真</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 博物館職員から資料について解説を聞く。</li> <li>・ 疑似体験して、開拓作業の努力や苦心を体感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開拓当時の生活の様子を知り、先人たちの工夫や苦労を感じるを通して、本単元に関心をもたせる。</li> </ul>

(3) 展開

学習活動・学習内容	<input type="checkbox"/> 教師の働きかけ <input type="checkbox"/> 館職員の働きかけ <input checked="" type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 資料活用のポイント	資料名	時間
1 本時の課題を確認する。	<input type="checkbox"/> 博物館職員を紹介する。 <input type="checkbox"/> 自己紹介をする。 <input type="checkbox"/> 今の豊かな生活は、先人たちの努力で成り立っていることを伝え、本時の課題へとつなげる。 <input type="checkbox"/> 現在と過去の三富の写真を見せ、三富の変化の様子を知らせる。	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の写真 (上空写真)</li> <li>・ 過去の写真 (現在の草木が生い茂っている写真)</li> </ul>	5分

昔の人たちは、どのように三富を開たくしたのだろう。			
2 課題について予想し、発表する。	<input type="radio"/> 視点を与え、予想させる。 <b>【視点】</b> <input type="radio"/> ①栄養の足りない土地はどうすればよいでしょう。 <input type="radio"/> ②かわいた土地で、海も川もない。水をどうやって手に入れたのでしょうか。 <input type="radio"/> ③土を巻き上げる強風が吹く土地は、どうすればよいでしょう。	10分	
3 疑似体験して、開拓作業の努力や苦心を体感する。	<input type="checkbox"/> 体験の前に道具の説明や活動手順の説明をする。 	<input type="checkbox"/> 体験の前に道具の説明や活動手順の説明をする。 ・ワークシート ・鍬(くわ) ・唐鍬(とうぐわ) ・籠(かご) ・もっこ ・ワークシート	20分
4 体感したことを記録し、発表する。	<input checked="" type="radio"/> 自分が体験していないときも、人のやっている様子をしっかりと見るようにする。 <input checked="" type="radio"/> 体験後、感じたことや思ったことをすぐを書くようにする。 ☆先人たちの努力や苦心について、体感したことをもとに考えることができる。 <input checked="" type="checkbox"/> (発言・ワークシート)	8分	
5 本時のまとめ	<input type="checkbox"/> 本時のまとめの話をする。 <input type="radio"/> 次時からは、学習問題を設定し、三富について調べていくことを確認する。	2分	

#### 4 成果

- 博物館の「ひと」や「もの」を活用したことによって、通常とは違った授業展開を行うことができ、児童の興味・関心が高まった。また、その後本時の授業を振り返った際、よく記憶している児童が多数おり、円滑に学習を進めることができた。
- 博物館を活用することにより、幅広い授業展開を行えることを知り、次年度以降も活用していこうという思いをもつことができた。



2 本時の学習課題を知る。			1分
本時の課題：奈良時代の朝廷は、どのように全国を支配したのだろうか			
<p>3 資料を基に、奈良時代の朝廷はどのように全国を支配したのか調べる。 (エキスパート活動)</p> <p><b>【律令の制定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国の律令を参考にして、決まりをつくった。</li> <li>天皇と貴族を中心とした支配体制が整えられた。</li> </ul> <p><b>【地方の支配】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都から派遣された貴族が国司として、地方を統一して支配した。</li> <li>都と地方を結ぶ道路が整備された。</li> </ul> <p><b>【都の整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国の都を参考にして、平城京をつくって権威を高めようとした。</li> <li>中国の貨幣を参考にして、和同開珎をつくった。</li> <li>都には各地の特産物が運ばれた。</li> </ul>	<p>○知識構成型ジグソー法による学習活動について説明する。</p> <p>○4人で構成する9班に、3つの視点をそれぞれ1つずつ割り当てて、どのように支配したのか調べさせる。</p> <p>○机間指導を行い、生徒の活動状況に応じて、助言を行い、個人による調べ学習を促す。</p> <p>☆奈良時代の朝廷の支配について、「律令の制定」・「都の整備」・「地方の支配」の3つの視点から、資料を適切に読み取り、まとめることができる。</p> <p><b>技</b> (ワークシートの記述)</p> <p>◎資料を読み取るポイントを助言し、奈良時代になって支配を強化するために、どのようなことをしたのか簡潔にまとめるよう指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> </ul> <p><b>【律令の制定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「大宝律令」</li> <li>「律令に定められた役所の仕組み」</li> </ul> <p><b>【地方の支配】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「五畿七道」</li> <li>「駅鈴」</li> </ul> <p><b>【都の整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「平城京」</li> <li>「和同開珎」</li> <li>「都にもたらされた特産物」</li> </ul>	40分
4 本時の授業のまとめと次時の授業の確認		・ワークシート	5分
<p>本時のまとめ：<b>【律令の制定】</b> 中国を参考にして律令というきまりがつくられ、天皇と貴族を中心とした政治が行われた。</p> <p><b>【地方の支配】</b> 都から貴族（国司）を派遣し、統一して地方の政治を行った。その際に、都と地方を結ぶ道路が整備された。</p> <p><b>【都の整備】</b> 中国の都を参考にして平城京をつくり、権威を高めようとした。また都には地方から特産物が運ばれて市が開かれた。都がつくられた時や市での売買には貨幣（和同開珎）が使用された。</p>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の調べ学習から、エキスパート活動を通して深めた知識を、さらに視野を広げて考察できるように、ジグソー活動に取り組むことを予告する。</li> </ul>	

### 3 実際の指導（7／12時間）

#### (1) 目標

<表>奈良時代の朝廷がどのように全国を支配したのか、ジグソー活動とクロストークを通して、多面的・多角的に捉えながら、適切にまとめることができる。

(2) 本時に活用する資料

教科書ページ	資料名 (図録ページ) 等	活用の仕方	ねらい
律令国家の成立と平城京 (p 42～43)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「川越の古道」</li> <li>・「和同開珎」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図をパワーポイントで提示し、学芸員による解説を行う。</li> <li>・和同開珎を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五畿七道の整備と共に、朝廷の支配が全国に広がるに当たって、東山道武蔵路が川越を通り、朝廷の支配が及び、また物流が行われていたことを理解させる。</li> <li>・和同開珎の原料として、埼玉の銅が使われ、学区内で発掘されたことを理解し、身近な地域の歴史に対する関心を高める。</li> </ul>

(3) 展開

学習活動・学習内容	<input type="checkbox"/> 教師の働きかけ <input type="checkbox"/> 館職員の働きかけ <input type="checkbox"/> ☆評価 <input checked="" type="checkbox"/> 資料活用のポイント	資料名	時間
1 前時の学習内容と、本時の学習活動の確認	<input type="checkbox"/> あらかじめジグソー活動の4人グループによる座席の振り分けをしておく。 <input type="checkbox"/> ゲストティーチャーの紹介を行う。 <input type="checkbox"/> 本時の学習活動であるジグソー活動とクロストークについて説明する。		3分
本時の課題：奈良時代の朝廷は、どのように全国を支配したのだろうか			
2 奈良時代の朝廷の支配について、それぞれの視点から調べたことを伝える。(ジグソー活動)	<input type="checkbox"/> エキスパート活動を終えた時点での自分の考えを、要点を絞って伝えるよう指導する。 <input type="checkbox"/> ジグソー活動が円滑に進むように、授業者やゲストティーチャーが指導・助言する。	・ワークシート 	12分
3 奈良時代の朝廷の支配について、班で意見をまとめる。	<input type="checkbox"/> 班の考えをホワイトボードに簡潔にまとめさせ、口頭で補足説明するよう指導する。	・ホワイトボード	12分
4 それぞれの班でまとめた考えを意見交換する。(クロストーク)	<input type="checkbox"/> 近隣の2～3の班で、ホワイトボードを活用して意見交換を行わせる。各班の見方や考え方の相違点に気付かせたり、自分たちの意見が深められるよう留意させる。		15分

	<p>□専門的な見地から資料の見方や考え方、また、身近な地域の歴史について解説する。</p> <p>◎道路の整備によって都と地方が結びつき、川越にも古道があったこと、秩父の銅が都に献上され和同開珎がつくられ、学区内で発掘されたことから、身近な地域の歴史を理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報提供</li> <li>・ 川越の古道</li> <li>・ 和同開珎</li> </ul>	
<p>5 個人で学習課題に対する考えをまとめる。</p>	<p>○活動前にまとめのポイントを指針とさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【考えをまとめるポイント】</b></p> <p>○朝廷はどのように政治の仕組みを作り上げていったのか。</p> <p>○朝廷による政治はどういう人たちによって、どのように進められたのか。</p> <p>○朝廷と身近な地域（武蔵国や川越）とは、どのような結びつきがあったのか。</p> </div> <p>☆2時間の学習成果を踏まえて、奈良時代の朝廷の支配について、多面的・多角的に捉えながら、わかりやすくまとめることができる。</p> <p><b>表</b>（ワークシートによる記述）</p> <p>○考えをまとめるポイントに沿って、学習内容を振り返るよう支援する。</p> <p>○学習課題の解決として、適切にまとめている生徒の考察を発表させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシート</li> </ul>	<p>8分</p>
<p>本時のまとめ：奈良時代の朝廷は、中国の制度を取り入れて政治を進めたことで支配を強めようとした。まず、きまり（律令）をつくり、天皇と貴族中心の政治制度を整えるとともに、地方には貴族（国司）を派遣して支配を徹底させようとした。また都（平城京）をつくって朝廷の力を見せつけるとともに、地方を結ぶ道路も整備され、各地の特産物がもたらされた。武蔵国の銅をもとに和同開珎もつくられている。こうして全国を統一して支配しようとする律令国家が成立した。</p>			

## 成果

- 資料作成の段階から学芸員に携わっていただき、教員が歴史認識を深め、自信を持って指導に当たることができた。また、本時の授業以前から博物館と連携して教材開発してきた成果があり、縄文・弥生時代から系統的に各時代における身近な地域の教材が提示でき、生徒の身近な地域に対する理解を深めさせることができた。
- 学習課題についての生徒の話し合いの場面で、ゲストティーチャーである学芸員が助言を与えたり、発表内容に専門的な見地から指導講評を行ったり、必要に応じ補助説明を加えたりすることにより、生徒の意見や考えに学問的な裏付けをしてもらうことができ、生徒は自信を持って学習に取り組むことができた。

## 小学校第2学年 外国語活動 指導カード

1 単元名 「数であそぼう」

2 指導計画（3時間扱い）

- (1) 数字を使ったゲームをして、「すごろく」をつくる。・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (2) ペアで「すごろく」をしたり考えたりする。・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (3) オリジナルの「すごろく」をする。・・・・・・・・・・・・ 1時間（本時）

3 実際の指導（3／3時間）

(1) 目標

- <関>友達との数の遊びを通して、積極的にやり取りしようとする。
- <気>すごろく遊びを通して、自分の住むまちの文化に気付いている。

(2) 本時に活用する資料

資料	活用の仕方	ねらい
・川越市の名所等の写真	・数の遊びを通して、川越市の名所等に親しむ。	・自分の住んでいる川越市について興味・関心をもち、学習意欲を高める。

(3) 展開

学習活動・学習内容	<input type="checkbox"/> 教師の働きかけ <input type="checkbox"/> 館職員の働きかけ <input checked="" type="checkbox"/> ☆評価 <input checked="" type="checkbox"/> ◎資料活用のポイント	資料名	時間
<導入>			
1 あいさつ	○あいさつをし、スムーズに活動に入っていけるようにする。		12分
2 めあての確認	つくったすごろくで、ともだちとあそぼう。		
3 語句の練習	○英語の音をよく聞き、発音させるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">one, two, three, four, five, six, seven, eight, nine, ten</div>	・フラッシュカード（数字）	
<展開1>			
4 Seven Steps を歌う。	○動作をしながら歌うようにする。	・CD	5分
<展開2>			
5 ボンゴゲームをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ①好きな1～10の数字を3つ選び、コマを置く。            ＊児童が“Number, please.”と聞き、教師が“It’s ～.”と答える。            ②2つ取れたら「リーチ」、3つ取れたら「ボンゴ」と言う。            ③取れた数を確認する。         </div>	・数字カード（児童用） ・コマ	10分

<p>&lt;展開3&gt; 6 すごろくをする。</p>	<p>○ゲームのやり方の見本を示し、理解させる。 ◎写真を見たり、台紙の言葉を読んだりすることで、市の名所等への関心を高める。 □川越市の名所等の写真提供</p>	<p>・すごろくの台紙（児童用） ・コマ ・川越市の名所等の写真</p>	<p>15分</p>
<p>①2～3人のグループになる。 ②順番に出た数を答え、その数だけコマを進める。 *みんなに“Number, please.”と聞かれたら“(It’s)～.”と答える。 ③1番先にゴールしたら勝ち。 *台紙（次のような言葉が使われたマス目がある）は、事前にグループで考えておく。全校で使用している小体連の体力向上委員会の「マラソンカード」を見ながら、行ったことがある場所を中心にグループで作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・喜多院は、さくらがきれいだ5つ進む</li> <li>・菓子屋横町でお菓子を買って1回休み</li> <li>・時の鐘がなって1つ進む</li> <li>・連繫寺でおびんづるさまに会って2つ進む。</li> <li>・熊野神社でねがいがかない3つ進む</li> </ul>			
<p>&lt;まとめ&gt; 7 活動の振り返りをする。 ・楽しかったことや、気付いたことを発表する。 8 あいさつ</p>	<p>☆友達との数の遊びを通して、積極的にやり取りしようとする。 <b>関</b> ○児童のよい面を、具体的にほめる。 ☆すごろく遊びを通して、自分の住むまちの文化に気付いている。 <b>気</b> ○あいさつをし、次時につなげる。</p>		<p>3分</p>
			

(4) 成果

- 「来年、ここに行ってみたいね。」「ここは、まだ行ったことがないからよく知らないよ。」などと話しながら、楽しそうに台紙を完成させていく場面が見られた。
- 授業後にも休み時間等に「すごろく」で英語を使って遊ぶことができた。新しく始まる社会科や外国語活動の学習について興味・関心が高まっていた。
- 第1学年でも、「色」をテーマにした活動と結びつけて実践した。川越市の名所等を台紙のマス目に入れて写真を提示し、簡単な「すごろく」を考えて取り組めた。自分の住んでいるまちに興味をもって、社会科や外国語活動の学習につながっていくことを期待したい。



【第1学年のすごろく】

## 小学校第6学年 外国語活動 指導カード

### 1 単元名 Lesson 4 「Turn right」

### 2 指導計画 (5時間扱い)

- (1) 町中にある建物の言い方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (2) 目的地までの言い方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
- (3) 道案内の仕方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間 (本時)

### 3 実際の指導 (5 / 5時間)

(1) 目標 道案内の表現を使って、グループで説明し英語に慣れ親しんでいる。(慣)

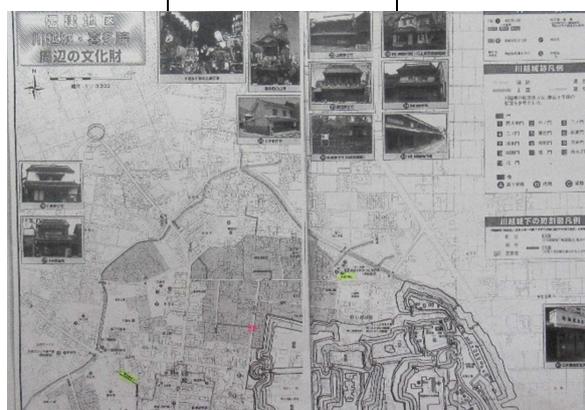
### (2) 本時に活用する資料

資料名	活用の仕方	ねらい
川越市文化財散策マップ	・グループ活動で使う地図に挿絵として配布する。	・実際の写真を見せ観光地や文化財を視覚的に捉えやすくする。

### (3) 展開

時間	学習活動	T1	T2	AET
3分	1 あいさつ T: What day is it? S: It's . T: What's the date? S: It's November T: How is the weather? S: It's sunny.	・T2の紹介をする。	・あいさつ後に、簡単に自己紹介をする。	・児童とあいさつをする。
7分	2 前時の復習 ① 建物の単語の練習 ② リスニング (T2の道案内を聞いて教科書を指さす) ③ スピーキング(目的地まで道案内する) ④ ペアワーク(ペアで道案内をし、言えるようになったら T2 または AET の前で発表する)		・前回までの復習を進める。	

<p>30分</p>	<p>3 グループワーク</p> <p>① グループごとにミッションの書かれた紙を1部用意する。</p> <p>② グループで川越の名所の案内の仕方とそこで何ができるのかを考える。</p> <p>③ 全員で言えるようになったら1～4班はAETに、5～8班はT1に発表する。</p> <p>④ ミッション1がクリアしたら、ミッション2に挑戦する。</p>	<p>・机間指導しながら、支援が必要な児童に補助をする。</p> <p>・偶数班の発表を見取る。</p>	<p>・机間指導をしながら、助言や補助を行う。</p>	<p>・机間指導しながら、児童の活動の様子を見守る。</p> <p>・奇数班の発表を見取る。</p>
<p>10分</p>	<p>4 ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・T2からの話を聞く。</li> <li>・今日のふりかえりを記入する。</li> </ul> <p>5 あいさつ</p> <p>T: Goodbye everyone.</p> <p>S: Goodbye Mr. ○○.</p>		<p>・中学校では小学校で習ったことを使って道案内をすることを教える。</p>	<p>・あいさつをする。</p>



(4) 成果

○川越の観光地の写真や地図を用いたことで、本当の場面でどのように案内すればよいか、どのような表現を使うことができるかを考えることができた。

○グループ活動を中心としたことで、英語に苦手意識を感じている児童も自信を持って活動に参加することができた。

## 中学校第3学年 英語科 指導カード

1 単元名 「日本文化を紹介しよう」(Sunshine English Course 3, My Project 8)

2 指導計画

- (1) My Project 8「日本文化を紹介しよう」のねらいと活動方法を説明する。
- (2) 授業の始めの10分程度、帯活動行う。それを10回程度くり返す。
- (3) AETに対して、1分30秒間でできる限り多くの日本文化などについて説明するテストを行う。  
\*指導時期：Sunshine English Course 3のProgram 6～7を学習している間に行う。

3 実際の指導（帯活動の様子）

(1) 目標

- ア 既習事項を積極的に活用して、自分が生活している地域の文化、伝統行事、祭りなどについて英語で説明しようとする態度を育てる。
- イ 自分が生活している地域の文化、伝統行事、祭りなどについて、英語で口頭説明できるようにする。(表現)

(2) 本単元で活用する資料

資料名	活用の仕方	ねらい
・博物館内に展示または所蔵している事物を撮影した写真。	・生徒に写真を見せ、それらの起源、特徴、使用方法などを英語で説明する方法を考えさせる。	・写真にある伝統的な事物に関する知識を再確認する。 ・それらを既習の事項を用いて英語で説明する方略を考える。

(3) 展開（帯活動の様子）

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 学習内容の提示	□博物館内の事物の写真の提供。 ○黒板に本日の「お題」（伝統行事等）とそれを表す写真を提示する。 ◎お題の事物が難しい場合は補足説明を行う。	本日の「お題」となる写真	1分
2 「お題」の内容を説明する方法を考える	○生徒にノートを用意させる。 ○生徒はお題を説明するために必要な英語の語句 (key words or key phrases) を考え、ノートに記入させる。(1分)	お題の内容 もの：たたみ、下駄、お神輿、まとい、はたおり機、ししまい、蔵造り	4分

	<p>○ノートに記入したことを発表させる（指名制ではなく自由に言わせる）。教員はそれらを聞いて黒板に記入する。（2分）</p> <p>○5～6種類の語句が挙げられたら、説明の際にそれらの語句を用いる順番を考えさせる。（広い概念から狭い概念へという順番で説明するように指導する）（1分）</p> <p>☆積極的に既習事項を用いようとしているか。</p>	<p>事柄：ひな祭り、盆踊り、七夕、節分、川越祭</p>	
<p>3 口頭練習</p> 	<p>○挙げられた語句を頼りに、お題を説明するための文章を教員と生徒で一緒に考える。その後各自で口頭練習を行わせる。（3分）</p> <p>○ペアになってじゃんけんを行い、負けたほうから説明させる。（できれば英語の語句だけを見ながら説明させる）（1分）</p>		<p>4分</p>

(4) その他

- ①帯活動で扱う「お題」は、毎回新しいものを提示する。(3)展開の始めの部分において、前回の授業で扱った語句の復習を入れても良い。
- ②黒板には「お題」説明するための文章全体は記入しない。挙げられた語句を頼りに自力で英文を構成できるように指導する。また、口頭練習の際には小さい文法上のミスは気にせずにとんちんかちするように指導する。
- ③各クラスで挙げられたキーワードは教員がメモしておく（デジカメ等で写真に残しておいても良い）。それらを、AET とのテストの前に生徒にプリントとしてまとめて配布する。
- ④生徒が考えたキーワード
  - (ア) Kawagoe Festival : event • on the third Saturday and Sunday in October / dashi / many people / intangible cultural heritage
  - (イ) Kura-zukuri : old buildings or houses • seen in Kawagoe / in the Edo period / be made of woods • be covered with stucco / kawara • Japanese style roof / strong against fire
  - (ウ) Matoi : in case of fire / firefighters • go up on the roof and stand it / Chinese characters • signs of the groups
  - (エ) Hataoriki : in the Edo period / be made of woods / strings • cloth / Tsuru-no-ongaeshi
  - (オ) Shishimai : lion dance / lion masks / bite children's heads / wish [pray] for children's growth and happiness
- ⑤AET が帯活動に参加できる場合は、英語で説明した内容が正しく相手に伝わるかどうかや、より良く表現する方法がないかどうか等のアドバイスを求めると良い。
- ⑥AET とのテストの方法
  - (ア) 別室で待つ AET の元に行く。挨拶をして、自分の出席番号を言う。

- (イ) 自分が住む地域の伝統行事や祭りについて書かれたカードが伏せた状態で重ねられているので、順番に上から取る。
- (ウ) 示されたカードの内容について、3つ以上のキーワードを使って英語で説明する。(キーワードを使わなかったり、同じセンテンス・パターンの繰り返しだったり、単語だけで説明している場合は得点にならない)。
- (エ) 説明できないものについては、“**Let me skip it.**”と言って新しいものを引きなおす。
- (オ) 授業中にやっていないものもカードに混ぜておく。説明できた場合は、倍の得点を与える。

#### 4 成果と課題

- ・生徒は、小学生の時に訪れた川越市立博物館の様子を思い出しながら、意欲的に学習を進めることができた。また、他教科領域で学習した知識も活用しながら、自分たちの住む街の事物や伝統行事について英語で説明する方法を身に着けることができた。
- ・小中連携の一環として、小学生が日本の文化等について説明する課で、中学生がその見本となったり作文を手伝ったりすることも可能である。

## 中学校第3学年 英語科 指導カード

1 単元名 「Guess what!

2 指導計画 (1時間扱い)

(1) 英語で物事を説明する発信力を鍛えよう。・・・1時間

※英作文や、接続詞 **when**、受身の文などの補習的に扱う。

3 実際の指導 (1 / 1時間)

(1) 目標

〈関〉積極的に話合いに参加し、自分からコミュニケーションを取ろうとしている。

〈表〉伝えたいことを英語で考え、適切に発信することができる。

(2) 本時に活用する資料

資料名 (図録ページ) 等	活用の仕方	ねらい
・今と昔では見た目が変わった道具の写真または実物。	・その道具の使い方を英語で説明する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今も使われている道具を題材にすることで、親しみを持たせる。</li> <li>・昔の道具が今使っている道具の何に当たるのか、推測して知的好奇心を高める。</li> <li>・生徒にとって難題であると思われる、英作文を楽しく、抵抗感を減らして取り組ませる。</li> </ul>

(3) 展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ ☆評価	□館職員の働きかけ ◎資料活用のポイント	資料名	時間
〈帯活動〉 1 あいさつ 2 Listening 練習 3 Reading 練習 4 歌				15分

<p>〈導入〉</p> <p>1 本時の目標提示</p>			5分
<h2 style="border: 1px solid black; padding: 5px;">相手に物事を説明しよう</h2>			
<p>2 写真・実物の紹介</p>	<p>◎興味を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に写真を貼り、今も使われている道具の昔の写真であるということのみ伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今と昔では見た目が変わった道具の写真または実物。</li> </ul>	
<p>〈展開〉</p> <p>3 課題の提示</p> <p>昔の道具の使い方を英作文する。</p> <p>4 英作文発表および答え合わせ</p>	<p>○英作文に取り組みさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洗濯機、冷蔵庫、ストーブ（火鉢）、カメラ、ジューサーなどから各班が一つ担当し、使い方を説明する英文を作る。</li> <li>・その道具を担当する班にのみ、その道具が何なのかを教える。</li> <li>・英文は3文以上書く。英語が不得意な生徒は日本語で説明を考え、班員と協力して英文を作る。</li> </ul> <p>☆ 〈関〉積極的に話し合いに参加し、自分からコミュニケーションを取ろうとしている。</p> <p>☆ 〈表〉伝えたいことを英語で考え、適切に発信することができる。</p> <p>○各班に英文を発表させ、その道具が何なのかを当てさせる。</p> <p>□道具の使い方を詳しく説明する。</p>	<p>(冷蔵庫)</p>  <p>(火鉢)</p> 	25分
<p>〈まとめ〉</p> <p>1 本時、学んだことを確認する。</p> <p>2 次回の授業連絡</p> <p>3 あいさつ</p>			5分

#### 4 成果

- 楽しみながら、英作文を作成することができた。
- 道具が何なのかを当てるゲーム性もあり、英語が苦手な生徒もしっかりと参加できた。
- 今までに学んできた文法事項の復習を行うことができた。



<p>3 実習計画に沿って、湯を沸かしてお茶を入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身支度</li> <li>・用具の準備</li> <li>・湯を沸かす</li> <li>・日本茶をいれる</li> <li>・試飲する</li> <li>・後片付けをする</li> </ul>	<p>□説明・演示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河越茶の歴史</li> <li>・実習手順の確認・ガスこんろの使い方</li> </ul>  <p>◎実際に湯を沸かしてお茶を入れ、飲み比べることにより、河越茶への関心を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河越茶</li> <li>・静岡茶</li> <li>・宇治茶</li> <li>・ワークシート</li> <li>・やかん</li> <li>・急須</li> <li>・湯飲み茶碗</li> <li>・ふきん</li> <li>・台ふきん</li> <li>・ガスこんろ</li> <li>・スポンジ</li> <li>・洗剤</li> </ul>	<p>70分</p>
			
<p>4 実習をして気付いたことや、思ったことをワークシートに記録し、発表する。</p>	<p>☆ガスこんろの安全な取り扱い方がわかり、湯を沸かすことができる。[技]</p> <p>○ガスこんろを使って、お茶を入れて飲んだ感想や、地元のお茶・河越茶のPRポイントについて発表させる。</p> <p>☆地元のお茶・河越茶に関心をもち、色・香り・味を感じ取ろうとしている。[関]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>	<p>10分</p>
<p>5 本時のまとめ</p>	<p>○ガスこんろの使い方や湯の沸かし方について確認する。</p> <p>○湯を沸かしてできることを考え、家庭実践するように促す。</p>		<p>5分</p>

#### 4 成果

- 地元のお茶・河越茶があることを知り、先人の取り組みに興味をもって活動することができた。
  - 静岡茶、宇治茶と比較することで、色、香り、味の違いを意識して河越茶を味わうことができた。
  - 児童から「河越茶をまた飲んでみたい」「家でもお茶を入れてみよう」という声が多く聞かれた。
- ☆地元のお茶、河越茶をPRしよう。

- ・ほんのりとまろやかで、少し苦いところもあるけれど、そこがおいしいところです。
- ・こくて、大人の味で色がこく、これぞお茶という味で、すごくうまい。
- ・かおりは、お茶のほんのりとやさしいにおいでした。味はほろ苦く、とてもお茶本来の味がでていて、とてもおいしかったです。
- ・苦みがありますが、味ではなく、かおりで楽しむのがおすすめです。

## 小学校第6学年 家庭科 指導カード

1 単元名 「暑い季節を快適に」

2 指導計画（8時間扱い）

- (1) すずしい住まい方をくふうしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間
- (2) すずしい着方をくふうしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (3) 洗たくをしてみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間（本時）

3 実際の指導（7・8／8時間）

(1) 目標

<技>手洗いを中心とした洗濯ができる。

<知>手洗いを中心とした洗濯の仕方について理解している。

(2) 本時に活用する資料

教科書ページ	資料名（図録ページ）等	活用の仕方	ねらい
・洗たくをしてみよう (P84～85)	・洗濯板 ・たらい	・体育着を手洗いするときに、汚れを落としやすくする工夫の例として活用する。	・昔からある洗濯板を実際に使い、洗濯機だけでは落ちにくい汚れは、先に手洗いしておくことよいに気付くようにする。

(3) 展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ      □館職員の働きかけ ☆評価                      ◎資料活用のポイント	資料名 ◇博物館から借用 ・自校で用意	時間
1 前時の振り返りをする。	○前時に計画した洗濯の手順について確認する。	・教科書P84・85 ・ワークシート ・洗濯するもの (体育着上)	5分
2 本時の課題を確認する。 ・課題の把握	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     実習手順に沿って洗濯をし、洗濯板を使うよさについて考えよう。                 </div>		
3 実習計画に沿って洗濯をする。 ・身支度 ・用具の準備 ・洗濯液をつくる ・洗う	□説明・演示 ・手洗いのよさ・洗い方の種類 ・実習手順の確認・洗濯板の使い方		70分



<ul style="list-style-type: none"> <li>・絞る</li> <li>・すすぐ</li> <li>・絞る</li> <li>・干す</li> <li>・後片付けをする</li> </ul>	<p>◎実際に洗濯板を使用して手洗いをするこにより、洗たくへの関心を高める。</p>	<p>◇洗濯板 ◇たらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洗い桶</li> <li>・物干し台や洗濯ハンガー</li> <li>・エプロン</li> <li>・雑巾</li> <li>・洗剤</li> </ul>	
	 <p>☆手洗いを中心とした洗濯ができる。[技] ○手洗いをした感想や、洗濯板を使うよさについて発表させる。 ☆手洗いを中心とした洗濯の仕方について理解している。[知]</p>		
<p>4 洗濯をして気付いたことや、思ったことをワークシートに記録し、発表する。</p>	<p>○手洗いのよさ、洗濯機を使うよさについて確認する。 ○気付いたことを、家庭生活に生かすよう声をかける。</p>	<p>・ワークシート</p>	<p>10分</p>
<p>5 本時のまとめ</p>			<p>5分</p>

#### 4 成果

- 博物館指導主事の先生から話を聞くことができ、興味を持って活動することができた。
- 洗い方のコツをその都度教えてもらうことができ、手洗いのよさや昔の人の知恵を実感できた。
- 家庭でも実践したいと思う児童が9割以上いた。
- 児童の感想
  - ・洗濯板を使うよさは、短時間で部分的な汚れがとれる。
  - ・洗濯機よりは細かいところがきれいになる。
  - ・手洗いにもいろいろな洗い方があり、洗濯板を使うと汚れがよく落ちる。
  - ・これからは洗濯機にすぐ入れるのではなくて、汚れているところを手洗いしてから入れようと思った。
  - ・おばあちゃんの家には洗濯板があるので、使ってみようと思った。

## 中学校第1学年 技術・家庭科(家庭分野) 指導カード

1 単元名 「地域の食材と食文化」

2 指導計画（3時間扱い）

（1）地域の食材と郷土料理・・・・・・・・・・1時間（本時）

（2）受け継がれる食文化・・・・・・・・・・2時間

3 実際の指導（1／3時間）

（1）目標

<関>地域で生産されている食材や地域の食文化に関心を持つ。

<知>地域で生産されている食材を知り、地域の食文化を理解する。

（2）本時に活用する資料

教科書ページ	資料名（図録ページ）等	活用の仕方	ねらい
地域の食材と郷土料理 (p130～131)	・紅赤おすすめガイド ・山田いち肖像画写真	・資料を全体に提示する。	・実際に資料を見せることで地域の食材や食文化を視覚的に知ることにより、興味を持たせる。

（3）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ ☆評価	□館職員の働きかけ ◎資料活用のポイント	資料名 ◇博物館から借用 ・自校で用意	時間
1 地域で生産されている食材を挙げる。	○地域で生産されている食材を挙げさせ、本時の授業への興味を持たせる。			5分
2 本時の学習課題を知る。				2分
地域の食文化について知ろう！				
3 川越芋の歴史について知る。	◎川越芋の歴史が紹介された資料を提示する。 ○川越芋の歴史を紹介し、川越芋をより身近な地域の食材として捉えられるようにする。 ☆地域で生産されている食材や地域の食文化に関心を持つ。<関>		◇紅赤おすすめガイド(リーフレット) ◇山田いち肖像画写真(リーフレット)	15分
4 食文化・郷土料理について知る。	○地域の気候や風土・歴史の中で多様な食文化が育まれてきたことを知らせる。		・ワークシート	15分

<p>5 まとめ</p>	<p>○食文化の中には、地域の食材をおいしく調理し、保存する工夫として郷土料理があることを知らせる。</p> <p>○知っている郷土料理について挙げさせ、日本各地には様々な郷土料理があることを知らせる。</p> <p>○「地域・食文化」というキーワードを使って本時のまとめを書かせ、数人の生徒に発表させる。(まとめでは、学んだことや今後生かしていけることを書くように指導する。)</p> <p>☆地域で生産されている食材を知り、地域の食文化を理解している。&lt;知&gt;</p>	<p>・日本各地の郷土料理の写真</p> <p>・ワークシート</p>	<p>10分</p>
<p>6 自己評価</p>	<p>○本時の授業の取組を自己評価させる。</p>	<p>・ワークシート</p>	<p>3分</p>

#### 4 成果

○川越芋の歴史を知ることにより、川越芋をより身近な食材として捉えることができ、地域の食文化や郷土料理に対する生徒の学習意欲が高まった。また、学習意欲が高まったことにより学習内容の理解を深めることができた。